



ごはん お米とわたし

作文・図画コンクール



笑味ちゃん
© みんなのよい食プロジェクト

第49回
作品募集中!



課題 作文・図画 両部門共通

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

「国消国産(こくしょうこくさん)」とは、自分たちが食べる食材は、できるだけ自分たちの国でつくるという考え方です。詳しくは特設サイトからご覧いただけます。



しめきり日 令和6年9月13日(金) 必着

応募・
問い合わせ先

JA神奈川県連広報局 JAグループ神奈川 検索
〒231-0002 横浜市中区海岸通1-2-2 JAグループ神奈川ビル8階 TEL.045-680-3046

応募資格 小学校に在籍する児童。特別支援学校の小学部に在籍する児童。

応募規格
(枚数・大きさ)

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。
2部 小学校4年生～6年生 画材は特に制限しません。

※神奈川県では図画部門のみの募集となります。
詳しくは神奈川県実施要領をご覧ください。

賞

内閣総理大臣賞	作文・図画部門各1名	計2名
文部科学大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
農林水産大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
全国農業協同組合中央会会長賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
優秀賞	各部門各部門ごとに15名	計90名
学校奨励賞	内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校	計14校

※各部門には審査基準がありますので、詳細については上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

主催：農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会
後援：文部科学省／農林水産省／こども家庭庁／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会(NHK)／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社)全国学校図書館協議会／(公社)日本PTA全国協議会／(公社)米穀安定供給確保支援機構
協賛：全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／(一社)家の光協会／(株)日本農業新聞／全国厚生農業協同組合連合会／(一社)全国農協観光協会

耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

本コンクールは、みんなのよい食プロジェクトの一環として取り組んでいる事業です。過去の受賞作品は、JAグループHPからご覧いただけます。



「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



笑味ちゃん ©みんなのよい食プロジェクト

＜過去の受賞作品＞ JAグループHP(<https://life.ja-group.jp/education/contest/>)でもご覧いただけます。

※学年は受賞当時のものです。

図画部門

第46回内閣総理大臣賞



「水田の帰り道」

群馬県太田市立沢野小学校5年
吉江 小浜さん

第47回内閣総理大臣賞



「みんなで稲刈り」

佐賀県佐賀県立武雄青陵中学校3年
高森 薫さん

第48回内閣総理大臣賞



「力いっぱい炊きあがれ」

埼玉県狭山市立山王小学校6年
津久戸 花実さん

作文部門

第48回内閣総理大臣賞

「ライバル」

秋田県東成瀬村立東成瀬中学校3年

高橋 颯太さん

秋田県のライバルは新潟県だと僕は勝手に思っている。その理由は両県とも米所だからだ。

ライバル県である新潟は「コシヒカリ」という品種で全国に沢山のファンがいる。特に魚沼産のコシヒカリは信者といっているくらいファンがいる。しかし、そうした新潟の独走体制に秋田県も黙っていない。秋田県は「あきたこまち」に続き「サホコレ」という品種を開発し、全国のお米ファンの胃袋をつかんだ。より美味しいお米の品種を開発するために、両県は切磋琢磨しながらこれまでずっと頑張ってきた。だから両県は良きライバル関係にある。僕はそう思っている。

しかし、今年、両県のお米がピンチになっている。異常気象により、秋の収穫が危ぶまれているのだ。

今年の秋田県は天災続きだった。七月の豪雨を始めとし、その後、異常な暑さが続いた。僕の通っている中学校でも、夏休み中、暑さ対策のために部活動が一週間中止になったくらいだ。熱中症にならないよう、僕は極力外出をひかえた。そのため、今年の夏休みは何となくばつとしない感じで終わった。全く――僕は青空の中、キラキラ照りつける太陽を恨めしく思った。中学校生活最後の夏休みが奪われてしまったように思えた。

ところが、この異常気象はお米にも大打撃を与えているらしい。秋田県の新潟に由利本荘市では、水不足で稲に実るはずのお米の量が激減しているそう。そしてその記事には稲が倒れている田んぼの写真が載せられていた。また、その田んぼの持ち主らしい農家の人が暗い表情で稲穂を手にはしている新聞もあった。

僕は驚いた。あんなに豪雨だったのに、水不足の地域があったことが信じられなかった。田んぼが黄金色に染まれば、お米もたくさん収穫できるものだと思っていた。秋田県に生まれ育ちながら、自分の県の特産品について全く無知であることに僕は恥ずかしく思った。そして同時に秋田県以外の地域のお米の生育状況が心配になった。僕は新潟県の水稲に関する情報がネットに載っていないか検索した。秋田県のライバルである新潟県のお米の事が心配だった。ライバルであるけれど、無事であってほしい。そんな祈るような気持ちで新潟県のお米ページを検索した。すると、秋田県と同じように高温による被害が出ていることが分かった。

新潟県のお米ページを見ながら、僕は農業関係でこんなページがあるんだな、と感心した。そのページとは農産園芸課の情報である。今年度の異常高温に対して、色々な対策の情報がぎっしりと載せられている。美味しいお米を作るために、陰でこんな努力があった事を僕は初めて知った。秋田県はどうなんだろう。僕は秋田県の稲作情報について検索した。すると秋田県でも同じように高温対策情報が載せられていた。僕はその画面をしばらくの間、ずっと見つめていた。

毎日の食卓に出てくるごはん。僕はそれを当たり前のようになら食べていた。しかし、僕の家の食卓にあがるまで、そのご飯はたくさんのお米が必要なのだ。お米を作る農家の方々は、天候に気を遣いながら頑張っている。そして、その管理をサポートする人達も農家の人達に有益な情報を流すよう、仕事に取り組んでいる。その他にも僕知らない所で、お米の生産のために働いている人もいるのだろう。そう考えると、食べ物を作ってくれる人に感謝しなければいけないと僕は改めて思った。

猛暑の中で作られた今年のお米。農家の人達にとっては生産が難しい年になった。だから大切に食べなければいけないと僕は思う。

今年の秋早目の稲刈りが始まる。ライバル県も生産量が少しでも多くあってほしい。

応募総数

第48回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

作文部門:30,649点 図画部門:42,943点

第49回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会／表彰式日程

【全国審査会】

作文本審査会:2024年11月12日(火)
図画本審査会:2024年11月15日(金)
会場:JAビル(東京・大手町)

【表彰式】

日時:2025年1月11日(土)
会場:浅草橋ヒューリックホール

作文・図画コンクール 表彰式

